入選

御子柴 夏希（みこしば なつき）　散田小　５年生

作品名：「やさしさの木の下で」を読んで

図　書：やさしさの木の下で

みんなにはそれぞれ、「できること、できないこと」があり、そのことをいかして生きていく。私はそう思う。特に、「やさしさの木の下で」という本を読んで強く考えた。

この本は、難病と闘う主人公と家族のことをかいたお話で、治療の時の苦しさや、楽しかったことなどがかかれていた。私は、このお話しで出てくる主人公には難病と闘う強い心を持っているし、いくらりっぱな人でも「できないこと」だってある。それで、みんなはどんどん「できないこと」が、「できること」になり成長していくのだと思った。

それに、この本には人はみんなに「やさしさ」をもらったり、お世話になったりして成長していくとかいてあって私は、そのみんなからもらった「やさしさ」を大切に生きていこうと思った。だから、今度は私が、人を助ける仕事についたりして、みんなに「やさしさ」を届けたいと思う。

もし私が、この「やさしさの木の下で」の主人公だったら、病気と闘う強い心を持っていなくて、すぐに落ちこんだりしてしまうと思う。しかし、この主人公はあまり落ちこんだりせずに病気と闘えてすごいと思った。それに、病気になったことを悪いことと考えず、大学二年生になって、お医者さんや看護婦さんにいっぱいお世話になったのでこれからもがんばって生きたいし、ぼくがもらった「やさしさの木」を大切に育てていきたい。というように考えていて、私はこの主人公はたくさん苦労して、強い心を持ち、病気になったことをあまり悪いこと。と考えたりしなくなったのだと思う。

また、『ぼくがもらった「やさしさの木」を大切に育てていきたいです。』というところがみんなに「ありがとう」という気持ちがあり、私はこの本の中で一番好きだ。

これらのことから、私は、この本が一番心を動かされた作品だと思う。この本は、私の一生の宝物だ。

最後に、私は、みんなにはそれぞれ、「できること、できないこと」があり、それはあたり前のことで、自分にはよさがあること。人は、みんなにお世話になったりして成長していくこと。人は神様にせっかく命をもらったこと。この３つをどうか忘れないでほしい。